

# 令和7年度 志和池小学校 学校運営協議会 実施報告

## 1 学校の概要

学校名	都城市立志和池小学校		校長名	瀬之口 忠二	
学級数	16	児童生徒数	313名	職員数	30名
教育目標	心身ともに健康で、よく学び、正しく判断できる児童の育成				

## 2 学校運営協議会に関わる組織

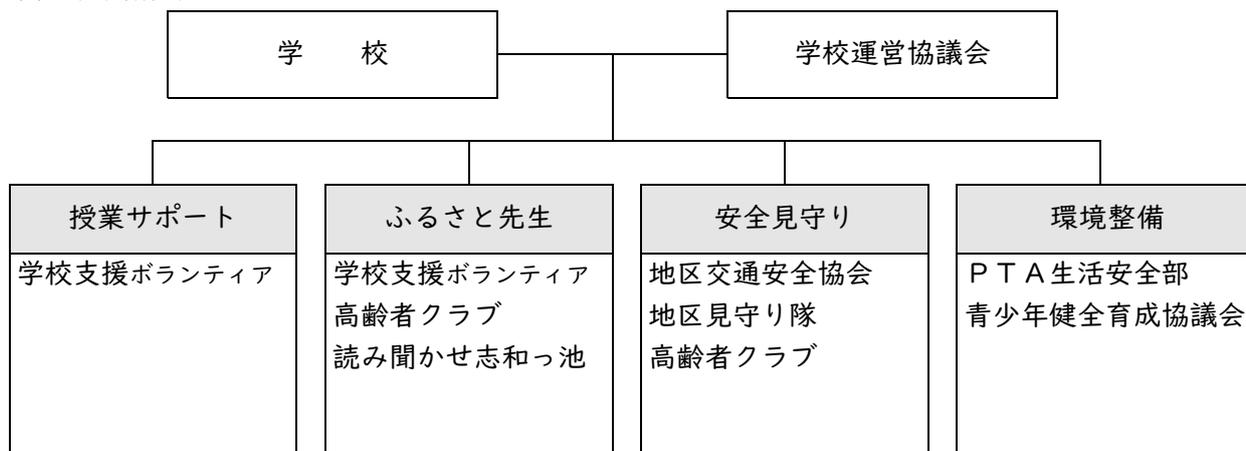
(1) 委員 (計7名)・事務局 (計3名)

学校運営協議会委員	No.	所属名 (役職)	氏名	備考
	1	元小学校校長	上原 正人	
	2	元主任児童委員	東 智恵子	
	3	志和池さくらんぼこども園園長	高田 昌彦	
	4	らいおんキッズクラブ施設長	佐土原 正次	
	5	志和池地区社会福祉協議会事務局長	黒木 政信	
	6	主任児童委員	楠牟礼和幸	
	7	志和池小PTA会長	平山 五記	会長
	8			

事務局	役職	氏名
	校長	瀬之口 忠二
	教頭	山崎 克尚
	教務主任	井上 浩樹

(2) 組織編制



## 3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月～5月	・学校運営協議会委員の推薦・選出
4月12日	・見守り活動開始
6月19日	・第1回学校運営協議会 (委任状交付・学校経営説明・年間行事の検討・協議)
7月30日	・第2回学校運営協議会 ※ 志和池中校区合同協議会 (志和池中校区の実態分析・共通理解事項確認)
11月12日	・第3回学校運営協議会 (2学期の行事実施状況及び今後の計画・学校評価)
1月28日	・第4回学校運営協議会 (学校評価に関するアンケートについて)
2月18日	・第5回学校運営協議会 (学校運営協議会委員評価書の検討・学校への助言と提言)

#### 4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるため」

#### 5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

##### (1) 学校支援活動

###### ア 学習指導支援

学習指導支援として、高学年では、運営協議会員を中心に、家庭科でのミシンの使い方の指導を依頼した。運営協議会委員及び地域の方々に来ていただき、担任とともに指導し、安全面の確保も十分図られた活動であった。また、高学年は「がね」作りを毎年行っており、今後も地域との連携活動の充実を図っていきたい。



【地域の方とのがねづくり】

###### イ 見守り活動

毎月第3水曜日を「見守りの日」とし、地域の方々による見守り活動を自主的に行っていた。登下校中の安全指導だけではなく、積極的なあいさつ運動の促進として、朝の校門で見守っていただいている。児童は、地域から大切にされていると実感し、元気なあいさつには委員の方からも評価を得ている。また、3月には見守り隊感謝集会を実施し、日頃お世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えるためにメッセージカードを作成し渡すことで、見守り隊の方々も喜ばれている。

##### (2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

###### ア 体験活動の充実

「体験活動の充実を図る必要がある」という意見を受けて、2年生において生活科と関連付けした「こまづくり」を実施した。毎年、学校運営協議会委員を講師として招き、指導をお願いしている。



【2年生のこまづくり体験活動】

###### イ 福祉体験の充実

福祉教育については、毎年3年生の総合的な学習の時間に実施している。

そして、都城市の福祉協議会と連携し、アイマスク体験や車椅子体験・盲導犬の学習を実施し、支援の方の話を聞き指導に生かしている。



【3年生の盲導犬体験活動】

##### (3) 地域貢献活動

ア 地域を誇りに思う気持ちを育てる取組として、5、6年生の児童が地域の伝承芸能である棒踊りの継承を行っている。地域の方に学び、友だち同士で教え合うことで、感謝や伝統を大切に思う気持ちが育っている。さらに、地域の棒踊り復活プロジェクトを行い、高学年児童数名が神社で演技を披露し、復活の一助をなすことができた。

###### イ 年賀状大作戦

まちづくり協議会と連携し、地域の高齢者の方へ年賀状を送る活動を行っている。地域の方からも児童への年賀状をいただくこともあり、心温まる活動として継承していく。

#### 6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

○ 第2回学校運営協議会において、志和池中校区4校合同（管理職及び各校の学校運営協議会委員）で実施したことで、志和池地区の現状と課題について共通理解を図ることができた。また、様々な体験活動を実施し、地域との交流を深めるとともに、本校の特色ある教育活動につなげることができた。

● 昨年度に引き続き、委員の方も社会の変化に関心があり、特に、ICT機器の活用には大きな期待を持っている。本校の特色の1つであるICT機器の活用を、さらに地域との協働に広げ、教育活動の活性化につなげていく必要がある。

#### 7 次年度の方向性

- 今後もICT機器の活用を、地域との連携・協働に広げていく取組を積極的に推進する。
- 地域人材の高齢化が課題であることから、PTAを含めた新たな人材確保を図る必要がある。